

## 【決算ハイライト】

## ① 2017年度上期決算について

- ・売上高は191.7億円(+5.3%)、経常利益は12.3億円(+67.9%)。 ※カッコ内は前年同期比
- ・売上高、経常利益とも過去最高を更新。親会社株主に帰属する四半期純利益はオフィス統合に伴なう特別損失計上により前年同期比-33.9%
- ・製鉄所システムリフレッシュにより鉄鋼向け売上高が増加。通期業績目標の達成に向けて順調に進捗。

## ② 2017年度通期見通しについて

- ・通期見通しは当初計画どおり変更なし。

## ③ 中期経営計画の進捗について

- ・中期計画の重点課題(\*)は本年度末をもって全課題を達成する見込み。

(\*) 製鉄所システムリフレッシュの推進、ソリューション事業の拡大、基盤サービス事業の拡大、製造・金融顧客基盤の強化、プロダクト事業の強化

## 【質疑応答】

Q1 オフィス移転の狙いと今期・来期の損益影響についてどのように考えているのか。

A1 オフィス移転の狙いは、①部門間コミュニケーションの活性化、②「健康経営」を志向したオフィス環境整備による生産性向上。また、新卒採用面などでは、既に効果を実感している。損益影響については、特別損失等、見通しに反映済みであるが、現在、移転工事の最中であり、多少変動する可能性はある。

Q2 製鉄所システムリフレッシュは次期中期計画期間(2018~2020年)では売上高などの規模はどのように見込んでいるのか。

A2 次期中期計画期間中に開発のピークを迎え、終了時点では、その規模が継続していると見込んでいる。

Q3 製鉄所システムリフレッシュへの対応のため、一般顧客向けの仕事量の調整が必要となるという認識に変更は無いのか。

A3 その通り。一般顧客向けについては現状維持の見通し。

Q4 製鉄所システムリフレッシュの要員確保は順調と考えて良いのか。

A4 ベトナムのオフショア活用の体制作りを進めており、リソース拡大への対応を進めている。

Q5 製鉄所システムリフレッシュを通じた商品開発はどのような状況か。

A5 製鉄所の操業管理の分野でパッケージ開発を進めており、これらを一般のお客様に使って頂けるよう、更に汎用化していく予定である。